

地区名：乾側地区

実施主体：乾側をよくする会

1 基本データ

- 地区人口 923 人 (H31. 1. 1 現在)
- 世帯数 335 世帯
- 行政区数 8 行政区
- 面積 約 5.8 平方キロメートル
- 地区の沿革

乾側地区は、市街地の北西部に位置し、地区西端にある花山峠を境に福井市に接し、地区中央の東西を国道 158 号線が横断しており、大野市の西の玄関口となっている。

2 現状と課題

乾側地区は縄文時代から人々が住み始め、大野でも最初に開けた場所のひとつである。弥生時代や古墳時代には牛ヶ原を中心に大きな力を持った豪族が現れ、乾側地区内に多くの墓や古墳が作られた。中でも牛ヶ原の山ヶ鼻古墳群には奥越で唯一の前方後円墳があり、鉄剣や貨幣（和同開珎）も見つかっている。なお、大野盆地内の古墳のうち 6 割以上が乾側地区に集中している。

また、稲作が始まり、奈良時代には寺や貴族・豪族の土地である荘園が発達したが、牛ヶ原の荘園は、奈良時代には奈良東大寺領、平安時代には京都醍醐寺領として、今の大野市街地の北半分にまで広がっていた。その牛原荘には後に牛ヶ原城が築かれ、三社神社が建立された。なお、尾永見区には、稲作に縁の深い雨乞い踊りが無形民俗文化財として継承されている。

さらに、南北朝時代に築かれた戌山城は、金森長近によって越前大野城が築かれるまで、戦国時代の激動期を含め 200 年余りの間、大野とその周辺地域を治める斯波氏、朝倉氏の居城として、県内 2 番目の多さの畝堀数と奥越最大の規模を誇る山城であり、一乗谷城の東方面の

軍事拠点として重要な役割を果たしていた。

このように、乾側地区は古来、大野盆地の中でも最も歴史と伝統のある地域であり、その価値と魅力を高めるために、平成 22 年度から 3 ヶ年をかけて「みくら清水・戌山城址」及び「牛ヶ原城址・三社神社」の 2 コースの登山道整備を、平成 25 年度から 29 年度にかけて登山道の継続整備を含めた史跡整備に取り組むと同時に乾側の歴史に関心を深めて貰えるようマンガ調本「乾側歴史ものがたり」の発刊、乾側地区の史跡をマップに図示した「歴史ロマンの郷 乾側」と題した乾側史跡総合案内看板を制作、そしてこれまでに整備してきた史跡やそれ以外にもたくさんある乾側の魅力をより分かりやすく紹介・案内できるようホームページとパンフレットを制作するなど地域の魅力の再確認と情報発信に取り組んできた。

「残りたい、訪れたい、住みたい」と思えるような魅力ある地域づくりを行うには、今後、更なる地域資源の洗い直しや掘り起こしを行い、これまでに整備してきた史跡・伝統等を始めとする乾側の魅力を周知・継続発展させていくことに併せて、加速する地域の人口減少問題に対して、いかに取り組んでいくか、今後、重要課題となってくる。

3 平成 30 年度の事業内容

(1) 普及啓発・伝承事業

① 乾側史跡巡りウォーク

開催日時 平成 30 年 10 月 13 日 (土)

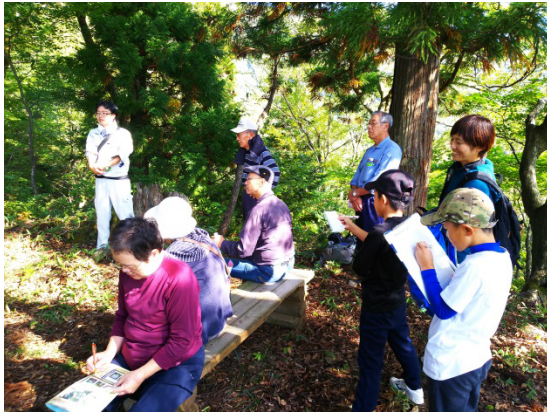
午前 9 時～正午

参加者 15 人

乾側の歴史や魅力への理解を深めて貰うと同時に健康と交流を目的とした「乾側史跡巡りウォーク」を地区住民を始めとする市内全域を対象に企画した。

乾側公民館に集合した参加者は、三社神社⇒牛ヶ原城址⇒坂戸一言神社の順にバスや徒歩に

て移動。途中、史跡ごとに市の田中学芸員から説明を受けながら、約3時間かけて散策した。



学芸員の説明を聞き勉強中



史跡に至る登山道での健康ウォーク

②ホームページの更新と乾側歴史物語の増刷

史跡をはじめとする乾側のたくさんの魅力をもっと分かりやすく紹介して見て貰い、たくさんの方に乾側へ足を運んで貰えるようにと制作した乾側魅力紹介ホームページを更新し、5年前に会で作成した乾側歴史物語(漫画)を増刷。



(2) 登山道・史跡整備事業

戌山城址登山道の補修作業

開催日時 平成30年10月6日(土)

午前9時～正午

参加者 14人

牛ヶ原城址の登山道については、過去に登山者が登りやすいように整備を行ったが、経年劣化により、登山道があちらこちらで損傷しているため、乾側をよくする会員を中心に補修作業を行った。なお、登山道の補修作業については、三社神社・牛ヶ原城址と戌山城址を毎年交互に継続して取り組んでいる。



新設した史跡への道案内看板

(3) 観光促進事業

電車利用の来訪者が様々なスポットに足を運べるよう、無料のレンタサイクルをJR牛ヶ原駅駐輪場内に配備しており、イベント時や普段でも利用者を見かけることがあり、乾側の観光促進の一助となっている。

最初に整備して2年経過したため総点検し、サドルや段切り替え機能を修理した。



(4) 地域活力事業

①第3回いぬいかわ夏まつり及び前夜祭

開催日時 平成30年8月10日(金)
11日(土・祝)

来場者数 延べ約240人

昨年に引き続き、第3回いぬいかわ夏まつりを開催。本年度も前夜祭も実施。日程を昨年同様帰省者の参加を見越してお盆連休にし、2日間で延べ約240人の来場者があった。

昨年の反省として、夜になると会場と簡易ステージが暗かったため、一部のブースで支障がでていたが、今年度照明器具を充実させた結果、

会場の提灯の明かり、簡易ステージのスポットライト等にて大変明るくなり、よりイベントを楽しむことができた。



②ふれあい乾側歌謡祭

開催日時 平成30年11月25日(日)

来場者数 16人

夏まつりにて購入した照明器具も使って、公民館のカラオケ講座受講者の発表と地域住民の自由参加のイベントとして「ふれあい乾側歌謡祭」を開催。歌だけでなく楽器の演奏ができる住民にも出演を依頼し、音楽を通じて住民の交流を図った。衣装も参加者が自前で用意していただき、参加者一同が楽しめるイベントとなった。





4 平成30年度の事業成果

昨年度に引き続き、会場や簡易ステージの照明を強化し夏まつりをさらにパワーアップさせつつ、これまで取り組んできた歴史遺産や史跡を活用した事業も継続して行った。

「普及啓発・伝承事業」としては、地区内外の参加者が乾側の歴史を、登山により身を以て体験し、地区の魅力の再確認を図ることができた。

「登山道・史跡整備事業」としては、地域の歴史資産である牛ヶ原城址登山道が経年劣化しているため、地域住民とともに補修を行うことができ、地域課題の解決を図ることができた。

「観光促進事業」としては、会で整備した無料レンタサイクルの安全管理のため、点検及びメンテナンスを実施し、利用者の方の利便性向上に貢献できた。

「地域活力事業」としては、夏まつりを今年度もお盆連休中に実施した。帰省者の参加もあり、前夜祭も含め延べ約240人の来場者数があった。また、乾側小学校の5・6年生による出店（水風船釣り、手作りもぐらたたき）は、企画から運営までを子どもたちで行い、当日は大変な賑わいであった。企画運営した子どもたちも、地域の大人と共に夏まつり運営に携わることで、地域住民の交流を通じ地域づくりの心が醸成され、地域活動を担う人材の掘り起こしに貢献できた。さらに、地区女性の会からも出店希望を受け、地域住民で夏まつりを盛り上げる機運が醸成されてきている。

○活動指標・成果指標の達成状況

・乾側歴史巡りウォークを実施し、地域の歴史的な魅力を再確認した。

参加者15人。

・第3回夏まつりを前夜祭を含めて開催し、2日間で約240人の参加となった。

5 今後の展望

地域の魅力となる素材の掘り起しが進み、ある程度数が集まってきているため、それぞれの素材の磨き上げとそれを活用した事業展開を模索し、地域住民の活動参加人数の増とさらなる交流を図りたい。併せて地区外への情報発信にも力を入れ、交流人口の増にもつなげたい。

特に国や市の方針としても、文化遺産の保全から活用へとシフトしており、地区内に多く残る城址や古墳の活用や、10年目となる醍醐寺との学校の交流を、地域全体としてさらに深めていきたい。